



## 「さがみはらSDGsアワード 2021」の受賞団体決定

市内の企業、団体によるSDGsに関する優れた取組を表彰する「さがみはらSDGsアワード 2021」の受賞団体が決定しましたのでお知らせします。

### 1 受賞団体 ※詳細は、別紙のとおり

#### ・相模原市長賞

受賞団体：田名小 PTA ～将来を担う子供たちのための「SDGs-PTA 活動」の実践

#### ・優秀賞

受賞団体：緑のダム北相模 ～森を守る、森を活かす、森と都市をつなぐ～

#### ・協働賞

受賞団体：株式会社ファイブスター ～多世代がごちゃまぜになる居場所づくり～

#### ・審査員特別賞

受賞団体：内出中学校 ～地球に優しいエコバッグ大作戦～

受賞団体：合同会社 HAYAMI ～毎日のちょこっとエコな選択を～

### 2 その他

・募集期間 令和3年7月1日～9月10日

・応募総数 32団体

・開催者 主催：さがみはらSDGsアワード実行委員会（実行委員長：飯塚 侑）  
共催：公益社団法人相模原青年会議所、公益社団法人津久井青年会議所、相模原市



17 パートナシップで  
目標を達成しよう



問い合わせ先  
政策課SDGs推進室  
電話 042-769-9224

# 【さがみはらSDGsアワード2021相模原市長賞】 田名小PTA～将来を担う子供たちのための「SDGs-PTA活動」の実践～

## 取組概要

バナナペーパーによる卒業証書の作成、田名小オリジナルのSDGsロゴマーク及び缶バッジの作成、配布、図書室へのSDGsコーナーの設置など、PTAが主体的にSDGsの普及啓発を推進している。

## ポイント

- 環境にも社会にも配慮されたバナナペーパーを使用することなどにより、SDGsに貢献するとともに、**子どもたちへの学び**にもつなげている。
- PTAが主体となって活動をすることで、子どもたちだけではなく、**親への普及**につなげている。



## 今後の展望

ジェンダー平等、平和教育などにも活動を広げ、多様な団体・事業者と相互に連携及び協力することにより、社会の様々な課題解決、子どもたちの笑顔と希望があふれる未来の実現に向けて取り組んでいく。

## 協働

- ・ 神奈川建設ユニオン相模原事務所田名支部（親子木工教室の開催）
- ・ 田名地区青少年健全育成協議会（魚釣り体験の開催）

## 審査委員長コメント

学校、家庭、地域社会をつなぐ重要な役割を担うPTAが、主体的にSDGsの推進に取り組んでいることは、他の地域へのメッセージ性が高く、インパクトを与えるものであると評価できます。この活動が地域の変革につながることを期待するとともに、今後の取組の更なる深化や、「さがみはらSDGsアワード市長賞」を受賞したことをPRすることによる他の地域への波及効果にも大きく期待します。

## 【さがみはらSDGs アワード2021優秀賞】

# 緑のダム北相模 ～森を守る、森を活かす、森と都市をつなぐ～

### 取組概要

間伐や枝打ちにより荒廃する人工林の整備を行う**森を守る事業**、また、乾燥や簡易製材に加え間伐材を活用する**森を活かす事業**、都市部市民が参加する**森と都市をつなぐ事業**を展開している。

### ポイント

- ボランティア団体としては初の**F S C 認証**を取得した経緯あり。
- 中高生の参加も多く、**若い力**が活躍をしている。
- GPSやドローン、センサーカメラなど、**先端技術の活用**を進めている。
- 相模原市内の小学生を対象とした**森林体験教室**も実施している。



### 今後の展望

**森林整備、森づくりを通して人づくり**を行う**環境教育、森林ESD**を柱に活動を続けるとともに、活動資金を継続的に作るため、自治体や企業からの支援を呼び掛けていく。

### 協働

- ・長福寺（フィールド提供）・小原宿活性化会議（地域連携）・東京学芸大学環境教育研究センター、東京学芸大Explayground推進機構（森林ESDでの協働、指導、共同研究実施）

## 審査委員長コメント

森林ボランティア団体として、国際的な森林認証であるF S C 認証取得していた実績は全国においても特筆すべきものです。この地域の特徴を生かした活動である点や、若い世代が活躍をしている点、活動の継続性や先端技術を取り入れている点なども相模原として誇るべき取り組みで、今後の活動の継続や更なる発展に期待します。

# 【さがみはらSDGsアワード2021協働賞】～多世代がごちゃまぜになる 株式会社ファイブスター 居場所づくり～

## 取組概要

多世代が交流する居場所を作るとともに、**高齢者を街を支える存在**とするために、運営するデイサービスを中心に様々な仕掛けを展開している。

## ポイント

- デイサービスに、**誰もが自由に本を借りる、寄附する**ことができる「図書室」を設置し、あえて不便利にすることで**コミュニケーションを生み出している**。
- 利用者と地域住民の連携による水道道の清掃と花壇づくりにより、**高齢者が活躍**できる場を創出している。
- 認知症の高齢者と学生による生活空間の共有や畑づくりにより、お互いができないことを補うことから生まれる**共生社会への意識醸成**



## 今後の展望

引き続き多世代が交流し、高齢者が活躍できる居場所づくりを進めるため、様々なステークホルダーとの連携を進めており、現在神奈川県住宅供給公社等と連携し、子どもから高齢者まで何でも相談できる「**まちかど保健室**」のプロジェクトを進めている。

## 協働

- ・地域住民（図書室の運営、水道道の清掃）
- ・青山学院大学（認知症デイでの活動）

## 審査委員長コメント

一企業が本業において、ユニークなアイデアで、誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて取り組んでいる点は高く評価できます。また、様々な取組を、地域や若い世代を巻き込みながら進めている点は他団体のモデルとなるもので、協働賞にふさわしく、今後の新たな展開にも大きく期待します。

# 【さがみはらSDGsアワード2021審査委員特別賞】 内出中学校 ～地球に優しいエコバッグ大作戦～

## 取組概要

不要となった布製品を回収するとともに、相模原青年会議所と連携しクラウドファンディングで資金を調達し、繊維の状態に戻してから**エコバックを作成**する事業を展開している。

## ポイント

- 学校全体の取組**となるよう、昇降口に回収ボックスを設置するとともに、校内放送や登下校時の声かけ等を積極的に行った。
- クラウドファンディングという手法を取ることによって、想いがあれば**中学生でも世の中の課題解決に向けて取り組むことができる**ということを発信した。



## 今後の展望

生徒でも馴染みやすく、活動の内容を理解してもらった上でSDGsに貢献してもらいたいという思いから、廃棄物や二酸化炭素の排出量を減らせるように、**リサイクルを促せるような回収活動を計画している。**

## 協働

- ・相模原青年会議所（クラウドファンディングの実施）
- ・タウンニュース社（活動の周知）

## 審査委員長コメント

中学生が主体となり、学校全体で取り組んでいる点を高く評価します。今回の取組を通じて沢山の学びがあったと思いますが、この経験を活かし、みなさんが「持続可能な社会の創り手」となり羽ばたくことを期待します。

## 【さがみはらSDGsアワード2021審査委員特別賞】

### 合同会社HAYAMI

～毎日のちよこっとエコな選択を～

#### 取組概要

完全生分解性の草ストローを輸入、販売することで、**プラごみの削減や循環型社会の形成、環境問題に対する意識啓発**につなげている。

#### ポイント

- 相模原市在住の**19歳の大学生が起業**。
- 無農薬、無添加、保存料不使用の環境にやさしいストローで、**長時間の使用にも耐えられる**作りとなっている。
- ベトナムの農村で栽培された草を使用しており、**フェアトレード**により雇用の創出にもつなげている。
- 使用店舗をSNSで発信しPRすることにより魅力を高め、**継続して使用**いただく取組をしている。



#### 今後の展望

使用後のストローを農家の堆肥や家畜の飼料として活用する仕組みを構築することで、**サーキュラーエコノミー**を実践し、循環型社会のモデルとしたい。

#### 協働

- ・NGOベトナム農村産業研究開発研究所（農村開発や欠陥品の再利用）
- ・東京農大（企業ネットワーク開拓）
- ・ハチドリ電力（エシカル普及）

## 審査委員長コメント

完全生分解性の草ストローという特色ある製品で循環型社会のモデル構築を目指す取組はもちろん、大学生が起業しビジネスとして軌道に乗せている点も高く評価します。今後、若い世代をけん引する存在となることを期待します。

# 受賞者決定の経過

**募集期間** 令和3年7月1日～9月10日

**応募者数** 32団体

**一次審査** 実行委員会事務局による審査（12団体が通過）

**最終審査** 審査委員会※による審査（10/6開催）

**受賞団体** 5団体（市長賞×1、優秀賞×1、協働賞×1、審査委員特別賞×1）

## ※審査委員会委員一覧

有識者	博報堂D Yホールディングス CSR推進担当部長 川廷 昌弘 氏 委員長	実行委員会	実行委員長 相模原 J C 理事長 飯塚 侑 氏
有識者	株式会社日本フードエコロジーセンター 代表取締役 高橋 巧一 氏	実行委員会	副実行委員長 津久井 J C 理事長 久保 武史 氏
有識者	法政大学 デザイン工学部 建築学科 教授 川久保 俊 氏	実行委員会	実行委員 相模原 J C 青少年委員長 八木さやか 氏
有識者	大月短期大学 経済科 准教授 山岸 絵美理 氏	市	市長公室理事(S D G s ・ D X 推進担当) 網本 淳
有識者	さがみはら市民活動サポートセンター 総括責任者 水澤 弘子 氏	市	総合政策部政策課 S D G s 推進室長 丸小野 美紀